

2025年度 授業コード: 1230600

授業科目	日本語教育方法論演習 I				実務家教員担当科目	-					
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期				
担当教員	矢野 花織										
授業概要	<p>本演習では、「日本語教育方法論 I」, 「日本語教育方法論 II」 で学んだ基礎的な知識に加えて、外国語（としての日本語）を教えるために必要な技術を身につけることで、日本語教育の実際の現場で生かせる素養を養う。</p> <p>日本語教師には、人前で分かりやすく説明をしたり、必要に応じてティーチャートーク・やさしい日本語を使ったりする力が求められる。そのため、授業ではこうしたスキルを高めていくことも意識して、学生によるディスカッションや発表などを中心に進めていく。</p>										
授業形態	対面授業（一部オンデマンド）			授業方法	Classroomを活用						
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬授業体験を通じた学びに基づき、教える際に気をつけるべきポイントを感知できる。 2. 教師としての自分の言動を意識化できる。 3. 座学だけでなく自分やクラスメートの実践から学ぶことができる。 										
理想的レベル	学んだことや知識を自分のことばで相手に合わせて分かりやすく工夫しながら説明できる。										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合（数値）				備考					
試験											
小テスト		20									
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）		30									
レポート外の提出物		20									
その他		30				授業への積極的参加とします。					
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	-	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	-
学習課題（予習・復習）										1回の目安時間（時間）	
授業に関連する事項について、提示された課題あるいは、自ら予習・復習を行い知識を深める										4	
授業計画											
第1回	<p>オリエンテーション</p> <p>授業の概要、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。</p>										
第2回	<p>日本語の教え方の基本</p> <p>外国語を学んできた経験をもとに、外国語としての日本語を教えるイメージを体感する。</p> <p>ティーチャートークの特徴を理解し、実践練習をする。</p>										
第3回	<p>日本語の単語</p> <p>日本語の単語の種類と相互の関係を確認し、その教え方を考え、指導を体験する。</p>										

第4回	日本語の音声と教え方 日本語の発音、アクセント、イントネーション、リズムについて確認し、その教え方を考え、指導を体験する。
第5回	日本語の表記と教え方 日本語の表記や漢字の導入などについて確認し、その教え方を考え、指導を体験する。
第6回	日本語の文法と教え方① 文型に関する知識を確認し、その理解を深めると同時に、その教え方を考え、指導を体験する。
第7回	日本語の文法と教え方② 名詞文、形容詞文や動詞の種類などに関する知識を確認し、その理解を深めると同時に、その教え方を考え、指導を体験する。
第8回	日本語の文法と教え方③ 普通形、受身形、使役形、意向形などの文法を復習し、その教え方を考え、指導を体験する。
第9回	日本語の構造の確認と指導体験 これまでに学んだ単語・音声・表記・文法などの日本語構造について、ペアワークによる指導体験を行う。
第10回	日本語の練習方法－ドリル－ ドリルの役割と種類について学び、指導を体験する。
第11回	日本語の練習方法－会話－ 会話練習、タスクなどについて学び、指導を体験する。
第12回	日本語の授業を見学する【オンデマンド】 日本語学校等の授業動画を、必要に応じて一時停止したり、気になるチャプターを繰り返し視聴したりしながら、ポイントを記録する。 教師の説明、指示、質問、訂正、励ましなどの発話、板書の組み立て方や、動きなどを観察する。
第13回	日本語を教える・学ぶ（1） 担当者（グループ1）は、視聴した日本語学校の授業を参考に教師役を演じてみる。 学習者役は学習者になりきって模擬授業を受けることで、学習者の心理を擬似体験する。
第14回	日本語を教える・学ぶ（2） 担当者（グループ2）は、視聴した日本語学校の授業を参考に教師役を演じてみる。 学習者役は学習者になりきって模擬授業を受けることで、学習者の心理を擬似体験する。
第15回	まとめ 前期で学んだことの振り返りを行う。
テキスト	『日本語教育のミカタ 一対話で具体的に学ぶ新しい教科書―第2版』荒川洋平(凡人社)(2021)
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	高見澤孟(2016)『増補改訂版 新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』アスク

課題に対するフィードバックの方法	随時ふりかえりの時間を設けるほか、必要に応じて個別フィードバックを行う。
学生へのメッセージ・コメント	模擬授業体験・教材作成等、「実際にやってみる」ことが多い授業です。 試行錯誤の中から、たくさんを学んでください。